

たまたまプラン

～多摩区地域福祉計画～



“たまたまプラン”とは・・・

たま（多摩）区の計画であること、多摩区地域福祉計画策定委員会の中で市民が中心となつて行つた「たまたま子育てまつり」が話題になり、このまつりが市民が中心となつて行つた活動のシンボルとしてとらえられたこと、さらにはたまたまつくられた？いえいえ必然的につくられたもので、親しみやすくわかりやすい表現という理由から名づけました。

はじめに …多摩区地域福祉計画策定の目的…

地域福祉サービスは、市民一人一人の生活圏において提供される必要があり、市民にとって身近な行政機関である区を単位として、多摩区の実状、特性に応じて地域福祉を推進していくことが求められています。

多摩区では、子どもからお年寄りまで誰もが、住みなれた地域の中で、安心して生き生きと健やかに自立した生活を送るために、さらには人々の生活の場である地域を拠点に、相互に助け合い誰もがその人らしく充実した生活が送れるような地域社会の実現にむけて、地域福祉計画を策定することにしました。

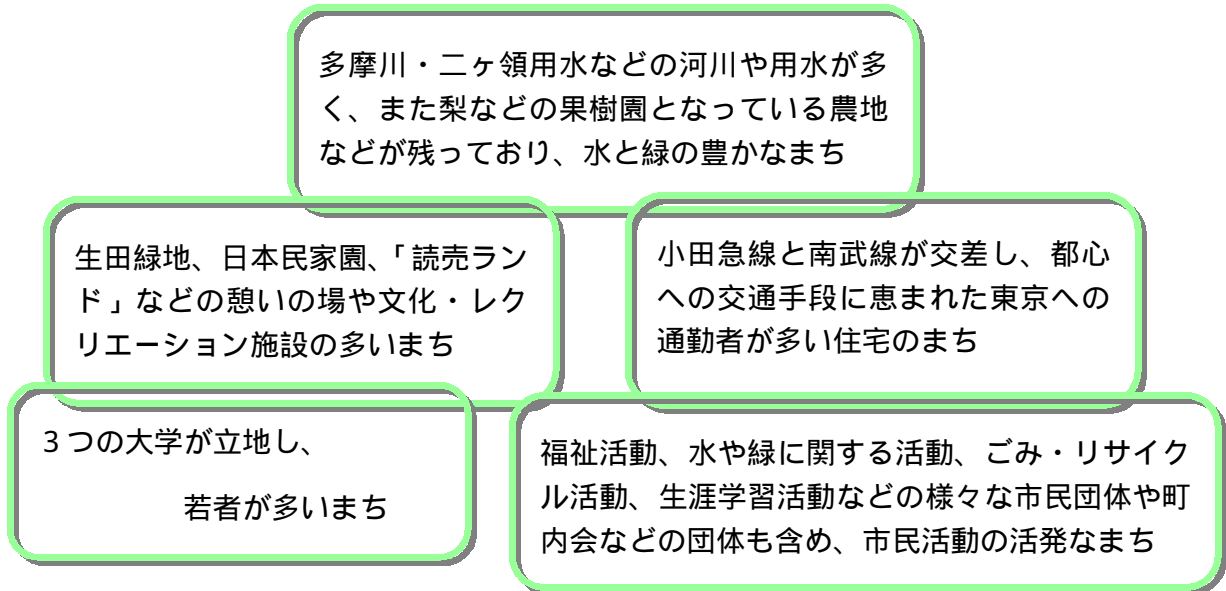
多摩区においては、ボランティアやNPO法人の活動の活発化など、市民レベルでの新たなコミュニティ形成を図る動きが顕著になってきています。地域保健福祉の推進は行政だけでできるものではありません。基本は住民参加であり、地域住民、当事者団体、地縁型組織、社会福祉団体、NPO団体、教育関係機関等々の地域福祉の担い手たちと協力、連携をとりあい、協働・パートナーシップの関係をとりながら地域保健福祉を推進していくことが求められています。すでに地域にある地域保健福祉の芽を育てながら、お互いの合意形成のプロセスをすすめていくためにも多摩区地域福祉計画を策定する意義は大きいといえます。

たまたまプラン - 目次 -

1	多摩区の特徴	1
2	多摩区地域福祉の課題と解決にむけた方向性	2
	三田地区まちづくり活動の方向	4
3	多摩区の課題	6
4	多摩区の基本目標および基本方針	5
- 1	基本目標と重点項目	5
- 2	重点項目を推進するための基本方針と事業展開	7
5	計画の推進に向けて	13
資料編 1	多摩区の主な福祉支援施設マップ	14
2	データでみる多摩区	16
3	多摩区地域福祉計画策定委員会開催経過	17
4	多摩区地域福祉計画策定委員会委員名簿	18

1 多摩区の特徴

平成9年に策定された多摩区区づくり白書「輝け多摩」によると、多摩区の特徴として次の5つがあげられています。



多摩区区づくり白書が作られて7年がたちました。

現在の多摩区は、人口約20万人で年々人口が増加しています。世帯では、単身世帯の割合が38%と7区中最も高く、特に25歳以下の単身世帯が14.6%と最も高くなっています。

駅からの利便性が高いことから、借家の割合が高く、東京に勤務する若い単身世帯が多く居住していると考えられます。

またひとり暮らし等高齢者実態調査の多摩区をみると、ひとり暮らしの高齢者のうち5人に1人は80歳以上の高齢者で、ひとり暮らし世帯・高齢者のみ世帯ともに、外出もひとりのできる元気高齢者が9割を超えているという結果が出ています。

多摩区では、様々なボランティアグループの活動が盛んです。

住民が中心となって「多摩ふれあいまつり」「まちづくりフェスティバル」「たまたま子育てまつり」などの大きなイベント活動を、協議会形式や実行委員会形式をとりながら展開しています。

区づくり白書が作られた7年前と、現在の多摩区の特徴はさほど変わっていないように思えますが、特に市民活動の活発なまちとして、ますます発展しているまちです。

2 多摩区地域福祉の課題と解決にむけての方向性

* 多摩区内地域福祉計画モデル研究（以下「モデル研究」という）から

多摩区では、地域福祉計画策定に向けての参考資料とするため、多摩区生田地区を中心に平成15年1月～3月にかけて「モデル研究」を行いました。

この「モデル研究」は次の3つの手法で行われました。

- (1) 三田・東三田住民を対象とした「住みよい・住みつづけたいまづくり」に向けた暮らしの実態と意向等の住民モニター調査及び小地域（三田小学校区）住民懇談会の実施
- (2) 主として生田地区の子どもから高齢者・障害者支援、健康づくりなどに関わる関係機関・団体代表者へのインタビュー調査（12団体）
- (3) 生田地域内の町会・自治会館、児童・障害・老人福祉施設、小学校等の教育関係施設のボランティア・住民の活動の参加状況等の調査と、市民活動を推進する「地域の拠点」の可能性についての調査

「モデル研究」で得られた地域福祉の課題とその解決にむけての方向性については、次の3つに整理されました。

一つは、住民とともに区全体で取り組むことが有効で必要な課題として、生田地区では身近な地域での有効な子育て支援のあり方や、健康づくり活動などへの定年退職者の地域参加の課題があげられています。これは住民とともに、意図的な取り組みを行うことによって、より一層目に見える成果が期待できると考えられました。

二つには、子育て、障害者、高齢者支援等には、地域の中で共通した課題が浮かび上がっていることです。それは、閉じこもりや孤立化の防止、きめ細かな情報提供と人材養成、ボランティアのあり方、町会・地区社協・民児協等との相互協力・理解などの課題です。これらの課題は、各区で共通する内容と思われ、全市の地域福祉計画課題として、整理検討することで、有効な取り組みが期待できると考えられました。

三つには、区または市の課題として、多くの住民の自主的な新しい活動を支援し、また区内の住民に紹介していく取り組みです。これについては、活動の拠点となるような各種の集会施設等をより身近な生活圏としての小中学校区ごとに整備し、拡充することを進めると共に、既存施設を有効に活用しながら、社会福祉協議会、ボランティアセンター、市民館等と連携して、横断的な視点から、支援、紹介していくことが有効と考えられました。

地域福祉計画は、区全体の取り組みとすべきものであり、まちづくりの視点と町会の役割が重要であることから、住民全体のまちづくり活動に関わっている部署の役割が重要になると考えられます。もっといえば、住民自らの取り組みと区役所全体で考えていく視点が大切であり、区全体の活動として区役所が一体となって取り組んでいく必要があります。

また多摩区社会福祉協議会は、平成14・15年度の2年間をかけ「多摩区地域福祉活動計画」を策定中です。その中で重要な福祉の課題として、小中学校からの福祉教育の充実と子育て支援などがあげられてきています。今回のモデル研究と重なる部分もあります。

今後それぞれがどう具体的に連携をとっていくかを明らかにしていくことが重要になってきます。

生田地域における福祉施設、学校、自治会館などの住民活動の参加状況や、市民活動を推進する「地域の拠点」の可能性については、以下のとおりです。

老人・障害者福祉関連施設では、

要援護高齢者等の見守りや情報交換、また介護予防などの健康教室、小中学生と入所者の交流事業などを幅広く行っています。市としては「老人いこいの家」の地域拠点機能強化とより一層の有効利用にむけて、活動時間の延長・拡大を含めて検討を進めています。

児童福祉関連施設では、

こども文化センターが、子ども会連合会生田支部や生田・南生田中学校区地域教育会議などと連携しながら、地域施設として開かれた運営を図っています。また保育園では、地域の親子への園行事参加の呼びかけや園庭開放を行い、老人ホームや小・中学生との交流、高校生・大学生の保育ボランティアの受け入れなどを行っています。市としては、こども文化センターを中学・高校生のための居場所づくりやコミュニティ施設としての活用などを、検討しています。

小中学校では、

総合学習の時間などを利用して、地域との交流、ボランティア活動などの理解を進めています。高等学校では、地域への体育館などの施設開放や知的障害者授産施設などとの交流を進めていますし、多摩区の3つの大学が集中している生田地区では、大学としての生涯学習プログラムの条件整備に努めています。

町内会館、自治会館は、

町内会や自治会活動を円滑に行うための施設ですが、その地域ごとによって作られた経過が違い、その所有関係や運営の仕方、地域活動への施設開放の考え方などが異なっている状況です。また利用方法についても、地域ごとに異なっています。

NPO法人「秋桜舎コスモスの家」(以下「コスモスの家」)を中心とする

三田地区まちづくり活動の方向

コスモスの家を中心となり、住民自らの地域調査研究から「三田のまちづくり委員会」がたちあがり、三田のまちの地域福祉計画づくりが進められています。モデル調査で明らかになった多くの課題を、「住民が望み、住民主体で取り組むべきこと」「公・民共同で行うもの」「行政の支援で行うもの」に整理し、行政からの一方的な政策ではなく、住民と行政が一体となり、相互協力して町づくり、支えあいを計画し、住民合意のまちづくりを目指しています。

コスモスの家は、多摩区三田地区を中心に高齢者福祉に関する活動を行っている団体です。十数年前に始めた主婦たちのボランティア活動が発展して、現在に至っています。

具体的な活動は、介護保険三事業（ケアプラン作成、デイサービス、ホームヘルプサービス）、ミニデイサービス、夕食宅配事業、小学校の教室を利用した介護保険対象ではない人のためのふれあいデイサービス事業などです。コスモスの家が事務局となった今回のモデル研究モニター調査結果をもとに、市・多摩区社会福祉協議会も交えた住民懇談会で、三田のまちの良いところ、悪いところ、解決への方針が明らかになっています。

三田のまちのよい点

- ・ 犯罪件数が少ない、緑が大切にされている、
- ・ 子ども・高齢者に対する虐待が少ない、
- ・ ゴミ回収が多く美しい、気軽にあいさつや交流ができる

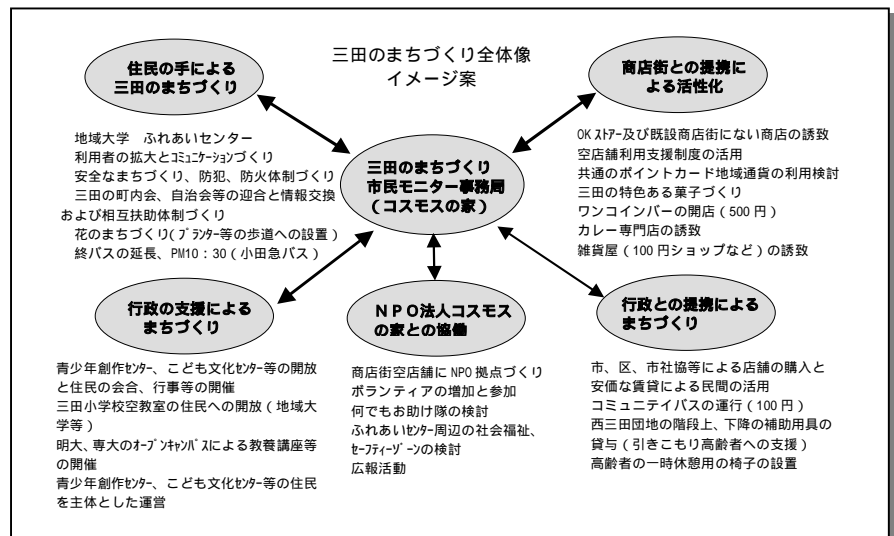
評価されていない点

- ・ 商店街や町並みがおしゃれではない、
- ・ 商店街が寂しい、身近に公共スポーツ施設がない、
- ・ バリアフリーの建物が普及していない、
- ・ 生涯学習・社会教育活動などが開催されていない

解決を図るために・・・

- 町内会、自治会と住民のつながりが薄いので、連絡ルートやネットワークを作っていく
- 世代間交流や仲間づくりができる場所をつくっていく
- 近所づきあい、特に高齢者のネットワークを作る必要がある
- 犯罪件数は少ないが、そのため防犯、防災に関する危機管理が弱いので、住民による自主的な防犯、防災活動が必要である

三田のまちづくり全体像



3. 多摩区の課題

平成14年度実施のモデル研究(市民活動団体に対するインタビュー)結果及び地域福祉計画策定委員会協議結果をふまえ、多摩区地域福祉の課題を次の5つとしました。

課題1

あらゆる場面で交流の機会を推進する。

こども文化センターと老人いきいの家は同一建物であるにもかかわらず、交流の機会が少ない。また日常的にいろんな人とふれあう機会が少なく、地域においても隣近所をはじめお互いを知り合う機会が少ない。

課題2

ボランティア等含めた地域福祉の担い手を育てる。

ボランティア活動・市民活動は活発になっているが、やる人が限られており活動のすそ野が広がっているとはいえない現状。小学校からの福祉教育の実践や幅広い世代の活用も含めて、担い手の育成が必要。

課題3

地域福祉の関わる活動場所を確保する。

財政的な問題もあり、活動場所や会場を手軽に確保できないことが各団体などに共通している悩みである。今ある既存施設を有効的に活用していくことが必要。

課題4

1人1人に情報がきちんといきわたるしくみをつくる。

各種情報発信をしていますが、欲しい情報がそれを必要とする人に迅速かつ正確に伝えられない現状がある。どうすればその情報が必要とする人にいきわたるのか、そのしくみづくりが必要。

課題5

いろんな団体をつなげるコーディネーターを育てる。

各ボランティア団体や市民団体は、主体的に様々な地域福祉活動を行っているにもかかわらず、情報の共有化がされていなかったり、お互いの活動内容の理解が不十分である。

4. 多摩区の基本目標と基本方針

- 1 多摩区の基本目標と重点項目

**あらゆる場面、機会を通して、
いろいろな人とふれあい、
交流（支え合い・助け合い）できるまち**



重点項目

多様な交流の機会の拡大

- 1 住民相互の交流の場面や機会をふやし、
交流の拠点づくりを図る
区内の公共施設や既存施設等の有効利用と施設
開放の推進
多様な交流が図れる場面や機会をつくる
- 2 参加しやすい条件（環境）づくり
地域の拠点場所に各支援コーディネーターを配置
楽しくて効果のある事業の共同企画
子育て世代が参加する各委員会、会合、講座、
イベントに保育の開設

重点項目

地域福祉の担い手の育成

- 1 学校との連携
福祉教育の実施
- 2 若いボランティアの育成
社協を中心としたボランティア講座の充実
若いボランティア人材の発掘
- 3 市民活動やボランティア活動の育成・支援
市民活動団体やボランティア活動団体の
ネットワーク化の推進
自分の経験・知識を伝えあう場づくり

重点項目

情報の共有化の推進

- 1 情報が横断的に行き渡るしくみづくり
広報の充実を図る
行政内部の情報交換・連携のパイプづくりをすすめる
保健医療福祉が連携した情報のしくみづくり
- 2 情報を集約する窓口の一本化
各種情報窓口の一本化
情報バンクあるいは情報センターの設置
情報のネットワーク化の推進

- 2 重点項目を推進するための基本方針と事業の展開

I 多様な交流の機会の拡大

基本方針1 住民相互の交流の場面や機会を増やし、交流の拠点づくりを図る

今多摩区内にある社会資源を有効に活用し、意図的に交流がはかれる場面、機会をつくっていきます。また交流の拠点づくりにむけた場の確保として、今ある既存施設を有効に活用し、現在ある場の利用拡大の推進を図ります。

《事業の展開》

区内の公共施設（こども文化センター・老人いこいの家等）や既存施設（町内会館・空き教室・商店街の店舗等）の有効利用と施設開放を推進します。

公共施設・既存施設の利用状況調査の実施
来年度以降、アンケートの実施
子育て・高齢者・障害者の拠点づくりの整備
今ある事業の見直しを図る
身近な地域での遊び場の確保（特に野外の遊び場）

* 取り組み事例

【学校施設開放と交流の取り組み】

川崎市立学校では学校教育に支障のない範囲で運動場、体育館、プール、特別教室などを「学校施設開放事業」として、市民の利用に提供しています。

多摩区の特別教室については、稲田・菅・南菅・南生田小学校、中野島中学校が実施しており、地域の人々が会議や学習活動に活用しています。

菅小学校では、生活科の授業に民生委員や地域住民がゲストティチャーとして参加し、菅地域の特産の野菜“のらぼう”やその他様々な事柄を紹介しながら、小学生との交流を深めています。

【子育て広場・子育てサロンの取り組み】

地域で子育て中の人々が孤立化しないように、気軽に相談できたり、子育て仲間や地域の人との交流を図ることを目的に、乳幼児とその親を対象とした「広場」や「サロン」が様々な場所で開かれています。

多くの会場はこども文化センターや保健福祉センター、市民館などですが、中にはキリスト教会や道場、NPO法人施設、自治会館を会場にしている所もあります。運営の主体も様々ですが、どこも自由遊びや、おしゃべりを楽しめるようになっており、気軽に参加できるのが特徴です。

多様な交流が図れる場面や機会をつくります。

こどもと高齢者の交流の機会の拡大
三世代交流サロンの実施（三世代交流拠点整備）
町内会館を利用した赤ちゃんサロン
町内婦人部、民生委員・児童委員等との連携
障害者と多くの人々との交流の機会を増やす
多摩ふれあいまつり（福祉まつり）の充実
日常レベルでの交流の推進
区内の大きなイベント事業における協力体制の確立
既存の福祉イベントをつなぎあわせ合同実施を図る
「たまたま子育てまつり」の定期的開催

* 取り組み事例

【老人いこいの家での高齢者とこどもの 交流の取り組み】

長尾と錦ヶ丘老人いこいの家では、民児協の児童部会が主体となり、長尾の「囲碁・将棋教室ならべよう会」が平成14年度から講師を地元の同好会に依頼し、毎月1回土曜日の午後に行っています。また錦ヶ丘でも、平成16年1月から同様の取り組みが始まり、「囲碁・将棋の会」として、12名の児童の参加があり、ともに地域に密着した楽しい世代間交流と子どもたちと融和の輪の拡大の場として、定着させていく予定です。



【多摩ふれあいまつりの取り組み】

たまわかくさ（多摩区当事者・ボランティア連絡会）の主催で、平成13年から障害のある方やボランティアの団体・グループが、地域でふだん活動している様子を紹介し、共に地域で暮らすことを願い「わたしとあなたとこの街と」をテーマに開催しています。企画・準備の段階から当事者団体・ボランティアグループ（44団体）及び、個人参加者などで構成される実行委員会と、参加団体で構成される担当者会議を何度も行い、様々な意見を出し合い検討し、実行しています。

【たまたま子育てまつりの取り組み】

「多摩区子育て支援会議」（事務局多摩市民館）という行政や市民団体など、区内で子育て支援に関わる機関の連携会議を母体に市民主体の実行委員会が組織され、実現にこぎ着けたものです。都合68団体の協力が得られ、まつり当日は親子連れなど約2500名の参加を得、好評を博することができました。平成16年度はより多くの市民の参加を集め、「まつり」が多摩区の子育てにかかわるあらゆる人々の集い・交流・連携・学びの場として機能・定着していくことをめざしています。

基本方針2 参加しやすい条件『環境』づくり

参加する個人の条件で、参加ができない状況にならないように環境の整備をはかっていきます。まただれでもが参加しやすいお互いが支え支えられる関係づくりをめざします。

《事業の展開》

地域の拠点場所に各支援コーディネーターを配置できるように、検討会を開催していきます。

楽しくて効果のある事業の共同企画を推進します。

健康大学の開催

三田地区での「めだかの地域大学」の開催

わたしの町のすこやか活動支援事業

「多摩すこやか活動推進委員会」

「生田地区すこやか活動推進委員会」

「菅地域すこやか活動推進委員会」

* 取り組み事例 *

【健康大学の開催の取り組み】

多摩区役所保健福祉センター・多摩区運動普及推進員の会・すこやか活動推進委員会（布田・中野島地区、生田地区）との共催で、有酸素運動の普及とネットワークづくりをめざし、1人1人の住民が健康大学の学生という立場で主体的に取り組んでいます。企画の段階から保健師と住民と一緒に話し合い、健康づくりの楽しさを企画、実践・評価を共有化しています。

平成15年度は介護予防を目的に、青空ストレッチの普及活動を行いました。

【「めだかの地域大学」の開催の取り組み】

三田地域において閉じこもり、介護予防の視点から、平成14年にNPO法人「コスモスの家」・多摩区役所保健福祉センター・市立三田あすみの丘老人保健施設・遊花園および多摩・麻生区基幹型在宅介護支援センターが協働して「ホットスペース！めだかの地域大学」の企画が始まりました。

高齢になっても安心して住み続けられるための地域づくりの一環として、世代間の交流や、地域での住民同士の支えあい、高齢者の経験や能力を積極的に活用することを目的に活動しています。

子育て世代が参加する各委員会、会合、講座、イベントにおける保育の開設を推進していきます。

II 地域福祉の担い手の育成

基本方針1 学校との連携

児童・生徒・学生などに対する人権、保健福祉意識の向上を図るため、教育委員会を中心とした学校との連携を深めていきます。

《事業の展開》 福祉教育の実施を推進します。

保育園、幼稚園と地域の関わりの強化
学童期からの乳幼児・高齢者・障害者とのふれあい教育の推進
中学校・高校でのボランティア活動の実施
福祉施設職員による教育現場での活動報告
養護学校とボランティアとの交流推進
地域教育会議の連携強化

基本方針2 若いボランティアの育成

若年・青年期から人権、福祉教育の充実をはかります。それにむけて区社会福祉協議会と連携を深めていきます。

《事業の展開》 社協を中心としたボランティア講座を充実します。

若いボランティア人材を発掘します。

大学との連携
社会人になってもボランティア活動ができる基盤の整備
ボランティアへの登録制度の拡充を図る



基本方針3 市民活動やボランティア活動の育成・支援

様々な市民活動やNPO法人等の参加を促していきます。社会人や特に定年を迎える退職後の生きがいづくりとして、生涯学習を通して、積極的に福祉活動に参加できる環境づくりを推進していきます。

《事業の展開》

市民活動団体やボランティア活動団体のネットワーク化の推進を図ります。

定期的に関係団体の懇談会の開催

子育て支援関係機関と市民も入れた「子育て支援会議」の定期的実施

介護者同士の連携を図る

介護者の自助グループによるボランティア組織の発足
地域教育会議の活用

自分の経験・知識を伝えあう場づくりを進めます。

介護経験者の活用

介護のノウハウの伝達を進める

定年退職後の特に男性が地域福祉活動に積極的に参加できるしくみをつくる

三田ふれあいセンター

定年退職者に対するボランティアへの登録依頼制度をつくる

* 取り組み事例 *

【「多摩区子育て支援会議」の取り組み】

区内で子育て支援に関わる活動をしている市民グループ・NPO法人・多摩区社会福祉協議会・主任児童委員や小学校・保育園・北部地域療育センター・保健福祉センターなどの行政機関が多摩市民館を事務局として、地域の子育て支援の取り組みについての情報交換や必要な連携・協力について話しあう会議で、年5回開催しています。

平成15年度の成果として「たまたま子育てまつり」の開催や「ロケットグループ」の実施などがあげられます。

【「三田ふれあいセンター」の取り組み】

NPO法人「コスモスの家」が、市の空き店舗活用助成事業を利用して、三田の商店街に「三田ふれあいセンター」をH15、7月に開設しました。

誰でも集え、利用できる場のオープンによって、キャリアをもった男性の定年退職者のめざましい活動参加が始まっています。

(昼食会、ミニ喫茶店、ギャラリー、相談室、朗読の会、ケーキを焼く会など)

III 情報の共有化の推進

基本方針1 情報が横断的に行き渡るしくみづくりを進めます。

情報不足や、孤立感の解消を図るために、住民が必要とする地域福祉サービスに関する情報が、手軽に入手できるよう広報活動の充実を図ります。

《事業の展開》

広報の充実を図ります。

多様な情報をわかりやすく発信する
関係機関連携による生きた情報の発信
子育て情報物など情報誌の定期的発行と改訂
施設情報の収集

行政内部の情報交換と連携のパイプづくりを進めます。

地域保健福祉の推進を担う区役所職員の研修の充実と、
保健福祉専門家の養成研修

どこでどんなことが行われているかお互いに情報交換し、
どこの部署でも住民に確実にその内容を伝えられるしくみづくり

保健医療福祉が連携した情報のしくみづくりを進めます。

子育て時期における早い時期からの病院や助産院と連携した
子育て支援

基本方針2 情報を集約する窓口の一本化を進めます。

地域保健福祉サービスに関する情報がそこにいけば入手できるという、窓口を明確にし窓口の一本化をすすめていきます。

《事業の展開》

各種情報窓口の一本化をすすめていきます。

子どもに関する情報窓口一本化と専任コーディネーターの配置

情報バンクあるいは情報センターの設置を進めます。

情報のネットワーク化を推進します。

インターネットの活用

5 . 計画の推進に向けて

多摩区地域福祉計画は行政計画であり、区が責任をもって取り組むべきものですが、この計画に大切なことは、住民の参加に基づく計画であることです。自分達が住む地域を今後さらにどう住みよく安心して暮らせるようにしていくか住民とともに考え、お互いが十分理解し具体的な実現に向けて努力していくために、協議を重ねていくことが大事です。このようにして策定された計画を、さらに住民の声を継続的にひろいあげて、よりニーズに即したものにしていくことが重要になってきます。

この計画の実施期間は5 ヶ年です。計画である以上計画の進行状況の点検が必要であり、計画の進行管理を含む評価体制を確保していくことが大切になります。

また、市の地域福祉計画・多摩区社会福祉協議会が中心となって策定中の多摩区地域福祉活動計画、そして区内での小地域レベルでの取り組み事例としての三田のまちの地域福祉計画づくりとの整合性、連携のありかたについても継続して話しあっていくことが必要です。計画としての継続性を保ちながら、住民としての役割、地域としての役割、関係機関としての役割、区としての役割が明確にされるような機会をつくっていくことが重要と思われます。

そうすることで多摩区地域福祉計画がより実効性のある計画になります。

多摩区の主な福祉施設マップ



多摩区総合庁舎
 多摩区役所保健福祉センター
 (多摩保健所・多摩福祉事務所)
 多摩市民館・多摩図書館
 多摩休日夜間急患診療所
 北部小児急患センター
 多摩区役所生田出張所
 多摩区役所菅連絡所
 多摩区社会福祉協議会
 (福祉パルたま)

病院

- A 武田病院
- B 生田病院
- C 稲田登戸病院

高齢者福祉関係

- 高齢社会福祉総合センター
- 多摩老人福祉センター
- ・老人いこいの家
 (____子ども文化センターと併設)
 登戸老人いこいの家
 菅老人いこいの家
 錦ヶ丘老人いこいの家
 長尾老人いこいの家
 枳形老人いこいの家
 中野島老人いこいの家
 南菅老人いこいの家
- ・在宅介護支援センター
 (____特別養護老人ホーム併設)
 多摩川の里
 太陽の園
 菅の里
 しゅくがわら
 アイリスケアセンター向ヶ丘
 多摩・麻生基幹型(麻生区)
- ・在宅介護支援センター
 遊花園
- ・老人保健施設
 三田あすみの丘
 よみつりランドケアセンター

障害者福祉関係

- ・身体障害者福祉センター
- (1) 多摩川の里身体障害者福祉会館
- ・知的障害者授産施設
 (2) 多摩川あゆ工房
- ・知的障害者小規模通所授産施設
 (3) はぐるま共同作業所
- ・知的障害者福祉ホーム
 (4) 三田福祉ホーム
- ・障害者地域福祉活動センター
 (5) 作業室なしの実
- (6) 作業室あかね
- ・知的障害者生活支援センター
 (7) いろはにこんべいとう

児童福祉関係

- ・こども文化センター
 (____老人いこいの家と併設)
 (a) 多摩福祉館こども文化センター
 (b) 枳形こども文化センター
 (c) 菅こども文化センター
 (d) 長尾こども文化センター
 (e) 錦ヶ丘こども文化センター
 (f) 中野島こども文化センター
 (g) 三田こども文化センター
 (h) 南菅こども文化センター
- ・乳幼児健康支援センター
- (i) エンゼル多摩
- ・地域子育て支援センター
 (j) 宙(そら)
- ・保育園
 1 西宿河原 11 生田
 2 宿河原 12 生田乳児
 3 多摩福祉館 13 龍巖寺(民間)
 4 東中野島 14 ひばり(民間)
 5 中野島 15 稲田(民間)
 6 中野島乳児 16 厚生館愛児園(民間)
 7 菅 17 なごみ(民間)
 8 土淵 18 第2厚生館愛児園
 9 三田 (民間)
 10 南生田 19 星の子愛児園(民間)

- ・NPO法人
 A たすけあい多摩
 B 秋桜舎(コスモスの家)
 C おおすみ
 D ほっとランド
 E 療養ねっとわーく川崎
 (サポートセンター・ランド)
 F ぐらすかわさき
 G エイジ フリー ランド
 H ままとんきっず
 I 地域介護フォーラム
 青空の会
- J 多摩食事サービス
 W.C.oかりん

幼稚園

- 市立生田幼稚園
- 丸山幼稚園
- カリタス幼稚園
- 菅幼稚園
- 西三田幼稚園
- 東菅幼稚園
- 生田ひまわり幼稚園
- 宿河原幼稚園
- 桐光学園みどり幼稚園
- 玉幼稚園
- 川崎若葉幼稚園
- 玉川幼稚園
- 中野島幼稚園
- 桐光学園寺尾みどり幼稚園

小学校

- 稲田小学校
- 宿河原小学校
- 長尾小学校
- 登戸小学校
- 中野島小学校
- 下布田小学校
- 菅小学校
- 東菅小学校
- 南菅小学校

- 西菅小学校
- 東生田小学校
- 三田小学校
- 生田小学校
- 南生田小学校
- カリタス小学校(私立)
- ・中学校
 稲田中学校
 中野島中学校
 菅中学校
 南菅中学校
 枳形中学校
 生田中学校
 南生田中学校
 カリタス女子中学校(私立)
 日本女子大学附属中学校
 (私立)

高等学校

- 県立多摩高校
- 県立向の丘工業高校
- 県立菅高校
- 県立生田東高校
- 県立生田高校
- 県立百合丘高校
- カリタス女子高校(私立)
- 日本女子大学附属高校
 (私立)

大学

- 明治大学(私立)
- 専修大学(私立)
- 日本女子大学(私立)

2 データでみる多摩区

(1) 人口 平成15年度川崎市統計データブックより

項目	データ	単位	7区中のランク
人口	200,563	人	2位
男性	105,955	人	2位
女性	94,608	人	3位
世帯数	92,852	世帯	2位
平均年齢	37.7	歳	6位
0～14歳人口割合	13.4	%	4位
15～64歳人口割合	74.9	%	1位
65歳以上人口割合	11.6	%	5位

(2) 人口動態 平成15年度川崎市統計データブックより

項目	データ	単位	7区中のランク
出生	2,139	人	4位
死亡	936	人	4位
転入	17,288	人	3位
転出	16,604	人	3位

* 5歳階層別人口

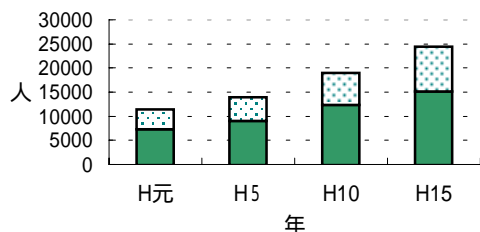
年齢	総数	年齢	総数
総数	202,042		
0～4歳	9,743	50～54歳	12,745
5～9歳	8,847	55～59歳	11,709
10～14歳	8,223	60～64歳	10,355
15～19歳	10,318	65～69歳	8,607
20～24歳	20,161	70～74歳	6,559
25～29歳	21,252	75～79歳	4,604
30～34歳	20,948	80～84歳	2,555
35～39歳	18,140	85～89歳	1,379
40～44歳	13,738	90～94歳	597
45～49歳	11,238	95～99歳	152
		100歳以上	20
		年齢不詳	152

(H15,10,1)

(1)の人口と数が違っているのは、調査日が違っているためです

(3) 高齢者 高齢者人口の推移

■ 65～74歳(前期高齢者) □ 75歳以上(後期高齢者)



要介護・要支援認定者数(第1号被保険者のみ)

項目	人	%
要支援	692	19.4
要介護1	1,071	30.0
要介護2	534	14.9
要介護3	434	12.1
要介護4	414	11.6
要介護5	427	12.0
計	3,572	100

(H16,1,31)

65歳以上の人のうち、要介護・要支援認定者の占める割合は14.6%

多摩区のひとり暮らし等高齢者実態調査から

○ 前期・後期高齢者別にみると

ひとり暮らし世帯では 65～74歳の前期高齢者の割合 60%
75歳以上の後期高齢者の割合 40%
高齢者のみ世帯では 65～74歳の前期高齢者の割合 69%
75歳以上の後期高齢者の割合 31%

5歳ごとの年齢区分でみると、ひとり暮らしの高齢者5人に1人は80歳以上という結果がでています。

○ 健康状態別にみると

ひとり暮らし世帯 大変健康～日常生活ほぼ自分 91～92%
高齢者のみ世帯ともに おおむね自分～手助けが必要 8～9%

外出もひとりのできる元気高齢者が9割をこえています。

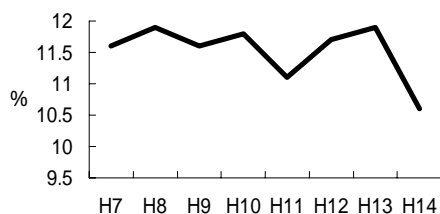
(4) 障害者

- 身体障害者数 3,262人 (H14,4,1)
- 知的障害者数 629人 (H14,4,1)
- 精神障害者保健福祉手帳所持者 341人 (H14,12,1)

身体障害者数・知的障害者数は、ともに年々漸増傾向にあります。

(5) こども

出生率の推移



○ かわさき健康ニューファミリー育成・健康資源開発モデル事業の実施報告書より

- ・ 祖父母のいる家族の割合

母子健康手帳申請時	4.0%
3歳児健診時	8.4%
- ・ 女性の有職者の割合

母子健康手帳申請時	54.5%
3歳児健診時	21.4%

3 多摩区地域福祉計画策定委員会開催経過

	会議・活動名	内 容	参加数
8月	第1回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 多摩区地域福祉計画の進め方について確認 第1回多摩区地域福祉計画策定委員会の進行について 	6
	第2回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 計画の進め方について確認 第1回策定委員会に提出する資料について 	12
	第1回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> 委嘱状交付 ・ 役員選出 多摩区地域福祉計画策定の進め方について 	委員 15 事務局 8
9月	第3回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 多摩区地域福祉計画策定に伴うこれからの取り組み、作業分担について 第2回多摩区地域福祉計画策定委員会の進行について 	6
10月	第4回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 第2回策定委員会に提出する資料について 多摩区の実状と課題について 	8
	第2回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> 多摩区の実状について 計画策定の進め方について 	委員 14 事務局 6
11月	第5回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 多摩区の社会資源について 多摩区の課題の整理と施策の提案について 第3回策定委員会の進め方について 	4
	第3回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> 多摩区の実状と課題について 計画の原案の枠組みについて 	委員 13 事務局 8
12月	第6回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 多摩区の課題の整理と施策の提案について 計画の骨子と方向性の確認 	15
	第7回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 計画の原案（たたき台）について 	7
	第4回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> 多摩区地域福祉計画の原案についての協議・決定について 	委員 13 事務局 8
2月	第8回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 計画の原案の構成、編集作業 	7
	第9回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 計画の原案の編集作業 	7
	各委員に多摩区地域福祉計画（案）を送付。	<ul style="list-style-type: none"> 各委員からの意見を集約し、計画の編集作業 	
3月	第10回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 計画の最終編集作業 	6
	第11回事務局打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 計画の最終校正作業 	5
	各委員に多摩区地域福祉計画最終原稿を送付。		

4 多摩区地域福祉計画策定委員会委員名簿

	氏名	区分	所属・職名	備考
1	園田 恭一	学識経験者	新潟医療福祉大学教授・東京大学名誉教授	委員長
2	豊田 博史	福祉・保健・医療関係代表	川崎市医師会多摩区医師会会長	副委員長
3	有北 郁子	市民団体の代表	NPO法人ままとんきっず代表	
4	池谷 英子	市民団体の代表	川崎市心身障害者地域福祉協会多摩支部長	
5	池野 廣	市民公募	市民公募委員	
6	今井 正	市民公募	市民公募委員	
7	小川 木久江	福祉・保健・医療関係代表	生田第二地区民生委員・児童委員協議会 会長	
8	小野寺 百寿	市民公募	市民公募委員	
9	佐伯 喜世志	市民団体の代表	多摩区町会連合会副会長	
10	澁田 隆一	市民公募	市民公募委員	
11	田嶋 郁雄	福祉・保健・医療関係代表	多摩区社会福祉協議会副会長	
12	吉澤 幸恵	市民団体の代表	布田・中野島すこやか活動推進委員会 事務局長	
13	森川 節子	多摩区関係職員	副区長 区民生活部長	
14	加藤 昌安	多摩区関係職員	保健福祉センター所長	
15	青山 晴彦	多摩区関係職員	保健福祉センター副所長	

敬称略 順不同

川崎市多摩区地域福祉計画

平成 16 年 3 月 31 日発行

発 行 川崎市
編 集 川崎市多摩区役所保健福祉センター地域保健福祉課
〒214-8570 川崎市多摩区登戸 1 7 7 5 - 1
電話 044-935-3292(ダイヤル)

